令和８年７月３０日
【　資　料　１　】

3附属機関等合同会 グループワーク まとめ

「分野を問わずに一緒にできたらいいな、連携が進めばいいなと思うこと」

問題 / 課題
アイデア / 意見
取組案

権利擁護

意思決定できるときに後のことを決めてもらう（目標①）

- 孤独死の場合に火葬に民生委員の同意必要
- 頼れる身寄りのない人が増えている
- 親族が多く、意思決定がまとまらない
- 本人の意思決定が難しい
- 甥や姪では看取りに同意しにくい
- 意思決定支援に関わるNPOなど法人の乱立による質の低下の懸念
- 適切な法人による意思決定支援
- 死後の公的な制度をフォローしてもらえる民間事業
- 自分の意思を表明する制度づくり
- エンディングノート
- エンディングノートがあれば施設でも支援しやすい
- エンディングノートを書こう！研修などの取組
- 延命措置に関する意思表示を仕組みとして義務化

世帯丸ごと支援

窓口以外でアプローチするきっかけはあるのかな？（目標②･⑤）

- ヤングケアラーではこどもがケアを当たり前と思っている
- 相談のハードル高い。どのレベルで行けばいい？
- 困りごとを誰も知らない世帯がある
- 相談場所が分からない
- どこからつながったらいい？
- 高校･大学で支援が見えなくなる
- 外から家庭のことが見えないし、当事者は相談先が分からない
- 本人が困っていると思ってない
- 関わりを拒否する人もいる
- 相談に来てくれない人への支援が難しい
- ギリギリまで助けてを外部に言わない
- 民生委員を知らない
- DVは見えにくい
- DVは支援につなげにくい
- DVで相談に行けず長引いている方がいる
- 資産がなくなると問題が表面化しやすい
- 普段から言いやすい･伝えやすい環境をどう作るか
- 地域に住む方がアンテナを立てられる？
- 住民参加でコストをかけない支援の仕組みづくり
- 支援の意思のある人を公募する
- 顔の見える関係づくり
- 民生委員の認知度を上げる
- 民生委員から分かりやすいネーミングへ
- 支援に入るきっかけに近所の人へアプローチ
- SOSを出しやすい雰囲気を作る
- 助けてと声を出せる場所

本当に支援が必要な人にいかにサービスを届けるか（目標②･③･④）

- セーフティーネットがあることをどうやって分かってもらうか
- 教育に福祉を入れていく発想
- 福祉教育の充実
- 他の機関とつながり、支援のきっかけをつかみたい
- 児童分野との連携が進めば･･･
- 高齢者の情報取得は広報あしやが一番
- 口コミは情報が早いそれで市の情報も伝わるといいな
- 支援や相談先を知ってもらう努力がいる
- 既存のものを使いながら、情報発信の回数を増やす
- SNSで相談している？
- 全世代に届くツールがあれば･･･

重なり合ったすき間をどのように把握しよう？（目標①･②･④）

- 個人情報を取るには壁があり情報が分からない
- 障がいのある人の世帯、介護に疲れているのでは？
- 養護者･介護者の孤立
- 制度で法律が異なっているので、できないことがある
- 若年性認知症の人を支えるネットワークは？
- 行政の介護保険の知識が少ない
- 障がいのある子の自立をどう促そう？
- 介護サービスは同居している障がいのある人には使えない
- 当事者の意思を大切にしてアプローチする
- 別の機関へもつなげることで解決できるようにもなる
- 行政の縦割りをなくし、仕組みを変える
- 分野を跨ぐ相談に対するワンストップ窓口
- 出張総合相談窓口
- テーマ別研修を分野横断で
- 障がいに対する理解がない
- 障がいの特性を理解してもらう機会が必要

社会参加/地域づくり

来てもらうためにはどう呼び込むかが重要（目標⑤･⑥）

- 障がいのある人は外に出ることが難しい
- 社会参加は必ずしも「外」に出ないといけないわけではない
- AIやORIHIMEを経由した社会参加
- 「誰でもどうぞ」の場所は誰も来ない
- 「居場所」のテーマ設定が難しい
- 「居場所」へは障がいのある人はなかなか行けない
- 対象を限定すると来れない場合も
- 認知症の人の社会参加が必要
- 認知症カフェは参加者が固定
- 「つどい場」の案内がない
- 認知症予防は参加者が多い
- 孤独･孤立している人に情報を届ける方法を見つけたい
- 居場所づくりをするけど、来てほしい人に情報が届かない
- 場所に行くきっかけは知り合いに誘われること
- 活動を知っていたら緩い感じで誘える？
- 分野を問わない立ち寄り場所づくり
- 市の認証があるといい
- 市役所のテラスで障がいのある人も高齢者も団らんできるように
- 夕方の居場所をつくる
- まじり合う場所は楽しい
- 福祉が前面に出ない
- 既存の場所を活かす
- アクセスのしやすい居場所
- 立地のいい市役所を交流の場に
- 多世代交流
- “ついで”で行ける
- 気軽に相談しやすい場所を入りやすく
- 話しやすさや傾聴力を持った人との会話の機会を創出する
- 「つながり」を持てるだけでもいい

キーワードは、明るい、楽しい、おしゃれ（目標⑤･⑥）

- 地域福祉への参加はデイサービスみたいなもの

支える側と支えられる側どちらにもなれる場（目標⑥）

- 施設で外の人と交流できる取組
- 居場所は対象によってテーマを絞るか考える？
- 高齢者･障がいのある人で黒松の茶を作り、売る
- 自分の作ったものが地域の人の役に立てるという場所があるといいな
- 男性の参加には「目的」が必要

役割を持てると楽しみになる（目標⑤･⑥）

- 活動したい人が繋がる仕組みづくり
- 大人の部活

情報の入手のしやすさが大事（目標⑤）

- 活動と参加が具体化（可視化）しやすい居場所支援の取組
- 広報紙や社協だよりに市民の取組を載せる
- 「つどい場」のチラシを置く棚があれば
- 活動者（ボランティア含む）の情報共有
- ボランティアの活用
- 学校の中で、みんなをサポートできる居場所があったらいいな
- ヤングケアラーの支援は行き届いているだろうか
- 在勤の人でも地域活動に参加できるように
- 社協と住民の人との協力
- 事業所の社会活動の支援
- 場所の担い手をどうする？
- 担い手の高齢化